

橋渡し研究戦略的推進プログラム

中間評価委員会（第1回）

橋渡し研究戦略的推進プログラムの概要

平成31年3月28日

10:00～12:00

文部科学省 17階 研究振興局会議室

AMED臨床研究・治験基盤事業部

橋渡し研究支援拠点事業の推移

橋渡し研究支援推進プログラム

医療としての実用化が見込まれる有望な基礎研究の成果を開発している**大学等のアカデミアを対象**に、開発戦略策定、薬事法を前提とした試験物の製造といった**橋渡し研究の支援を行う機関を拠点的に整備**。

＜プログラムの4つの柱＞

1. 橋渡し研究支援機関の機能強化
2. 橋渡し研究支援を行うための人材の確保・登用・育成
3. 橋渡し研究支援
4. 橋渡し研究支援機関の活動・連携の促進

5年後の達成目標
各拠点で2件の治験開始

【実績】
7拠点中6拠点で2件以上の治験開始

H19

第Ⅰ期

H23

H24

橋渡し研究加速ネットワークプログラム

橋渡し研究支援拠点の**シーズ育成能力を強化**すること、拠点における自己収入の確保を促進することで**恒久的な橋渡し研究支援拠点を確立**させること
＜3つの柱＞

1. 拠点のシーズ育成機能の強化
2. 拠点の自立化
3. 拠点間ネットワークの構築

5年後の達成目標
各拠点で医師主導治験3件以上の開始、自立化

【実績】
9拠点中8拠点で3件以上の医師主導治験開始

H28

第Ⅱ期

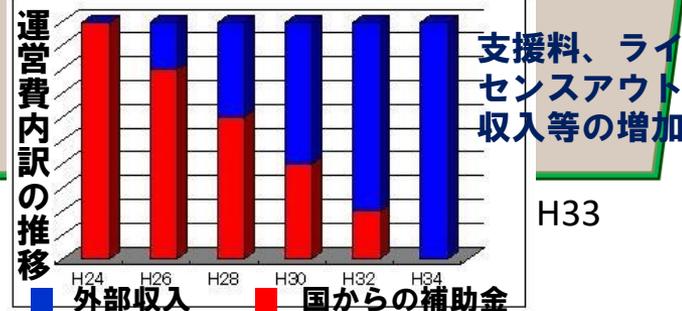
橋渡し研究戦略的推進プログラム

全国の大学等の拠点において、**他機関のシーズの積極的支援や産学連携を強化**し、大学等発の**有望なシーズを育成**することで、アカデミア等における革新的な基礎研究の成果を臨床研究・実用化へ効率的に橋渡しができる体制を構築。

- ・ 他機関への支援、産学連携推進
- ・ シーズの戦略的なマネジメント
- ・ 人材育成の強化

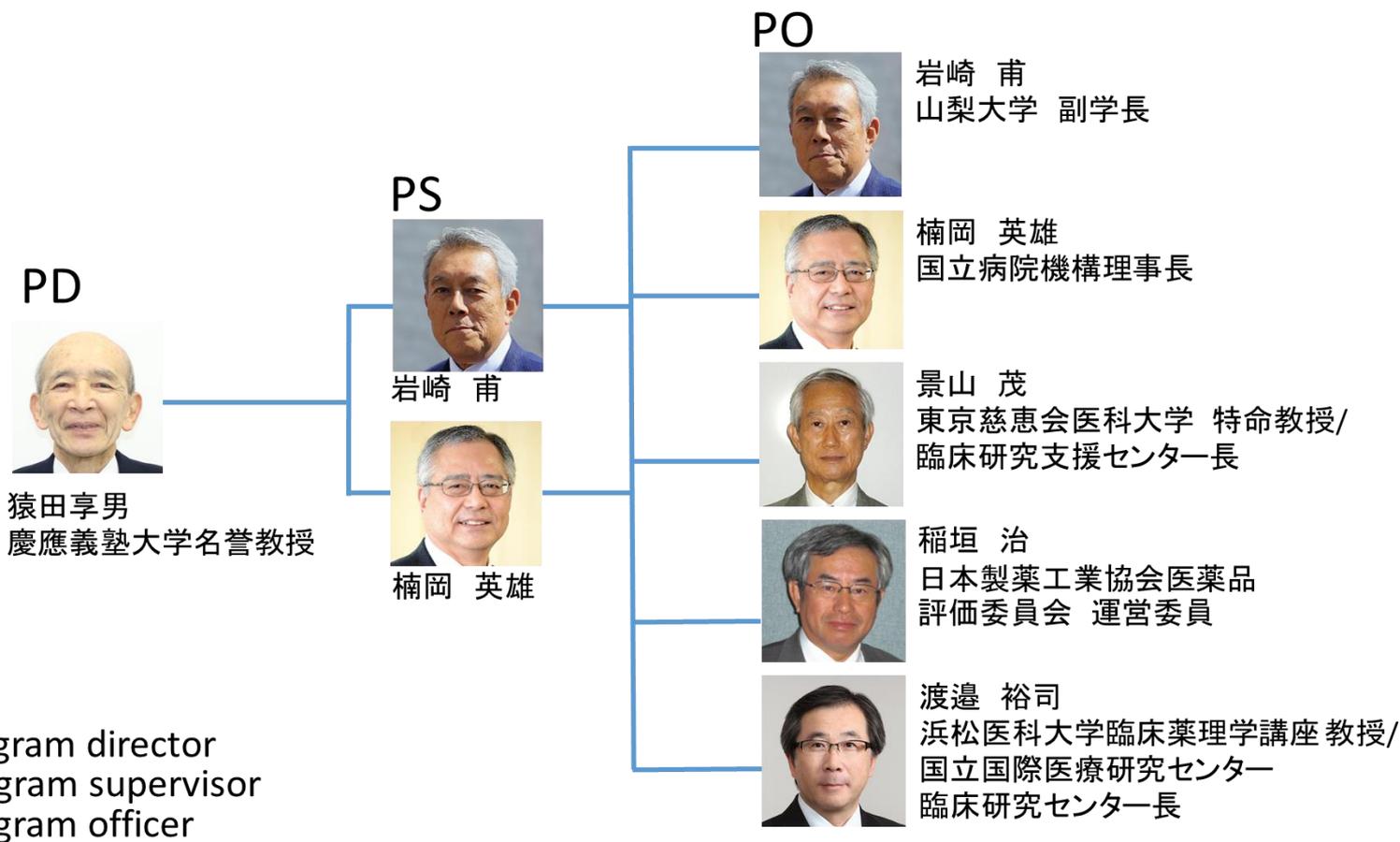
5年後の達成目標

- ・ 自立化（3～5年以内に、国からの基盤整備に係る補助を受けずとも運営できるよう、人員の定員化や自己収入等で充当可能な体制になるよう整備を行い恒久的な拠点を確立）
- ・ 各拠点で医師主導治験6件以上（うち2件以上は他機関のシーズ）の開始、ライセンスアウト30件以上



H33

革新的医療技術創出拠点プロジェクトの PD・PS・PO体制（平成29年度）



革新的医療技術創出拠点プロジェクトの PD・PS・PO体制（平成30年度）



PO



岩崎 甫
山梨大学 副学長

PS（文科事業）



岩崎 甫

PD



猿田享男
慶應義塾大学名誉教授



楠岡 英雄
国立病院機構理事長



楠岡 英雄

PS（厚労事業）



稲垣 治
日本製薬工業協会医薬
品評価委員会 運営委
員



渡邊 裕司
浜松医科大学 副学長/
国立国際医療研究センター
臨床研究センター長

PD: program director
PS : program supervisor
PO: program officer

橋渡し研究戦略的推進プログラム 全体イベント



【平成29年度】

2016年12月27日	第3期橋渡し研究支援拠点の公募開始
2017年4月1日	第3期橋渡し研究支援拠点（10機関）開始
2017年7月13日	革新的医療技術創出拠点プロジェクト全体会議
2018年3月5日	革新的医療技術創出拠点プロジェクト全体会議
2018年3月5日～6日	革新的医療技術創出拠点プロジェクト成果報告会

【平成30年度】

2018年4月27日	PD・PS・PO会議
2018年5月17日	PD・PS・PO会議
2018年6月1日	革新的医療技術創出拠点プロジェクト全体会議
2018年8月22日	PD・PS・PO会議
2018年12月26日	PD・PS・PO会議
2019年2月27日～28日	革新的医療技術創出拠点プロジェクト成果報告会
2019年3月14日	橋渡し研究支援拠点 第1回中間評価委員会
2019年3月14日	PD・PS・PO会議

橋渡し研究戦略的推進プログラム（H29～）

事業概要

全国の大学等の拠点において、アカデミア等の優れたシーズを臨床研究・実用化へ効率的に橋渡しする体制を構築。

➔ 拠点内外のシーズの積極的支援や産学連携の強化を通じて、**革新的な医薬品・医療機器等を持続的に創出**。

● 恒久的な拠点体制の構築

- 拠点内外のシーズに対して、プロジェクト管理や知財等の支援人材による実用化に向けた一貫した支援体制の構築。
- **事業期間中の自立化**（2-5年内）

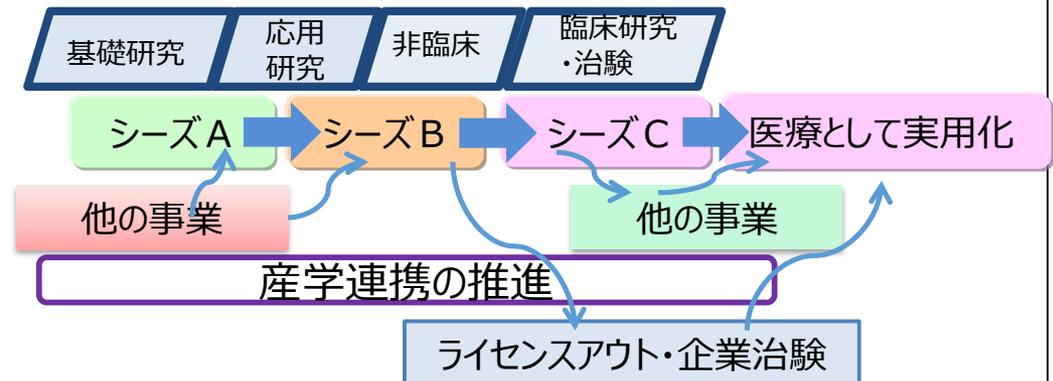
※拠点：北海道大学（分担：旭川医科大学、札幌医科大学）、東北大学、筑波大学、東京大学、慶応義塾大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、岡山大学、九州大学

● シーズ育成の一層の強化

- 拠点の機能・ノウハウの活用やシーズの進捗管理の徹底により、企業へのライセンスアウトや他事業への導出、実用化を推進
- **拠点外シーズの育成**を更に強化

● 拠点間ネットワークの強化

- 企業や異分野の研究者とのマッチングによるシーズ開発の加速
- 専門人材の育成



シーズA: 特許取得等を目指す課題、シーズB: 非臨床POC取得等を目指す課題、シーズC: 臨床POC取得を目指す課題

橋渡し研究戦略的推進プログラム 拠点体制の構築

橋渡し研究 支援推進 プログラム 採択年度	橋渡し研究 加速ネット ワーク プログラム 採択年度	橋渡し研究 戦略的推進 プログラム 採択年度	橋渡し研究支援拠点 研究課題名	実施機関	
平成19年度	平成24年度	平成29年度	新規医療技術の持続的創出を実現する オープンアクセス型拠点形成	【代表機関】 国立大学法人北海道大学 【分担機関】 北海道公立大学法人札幌医科大学 国立大学法人旭川医科大学	
			医工連携を基盤としたオープン・イノベーション・ プラットフォーム構築	国立大学法人東北大学	
			「知の協創の世界拠点」を目指した TR の戦略的推進と展開	国立大学法人東京大学	
			アカデミア発先端医療技術の 早期実用化に向けた実践と連携	国立大学法人京都大学	
			戦略的TR 推進による 自立循環型新規医療創出拠点の実現	国立大学法人大阪大学	
平成20年度	平成24年度		平成29年度	地域と拠点を結び世界へ展開する 新規医療技術の研究・開発	国立大学法人九州大学
				自立可能な好循環型先端医療開発拠点の 創成を目指した研究	国立大学法人名古屋大学
				基礎臨床一体型モデル/首都圏ネットワーク融合に よる橋渡し研究推進と革新的医療実現	学校法人慶應義塾大学
				健康寿命の延伸を目指した 次世代医療橋渡し研究支援拠点	国立大学法人岡山大学
				平成26年度	平成29年度

拠点調査会議のスケジュール（例）



1. 拠点整備状況（説明15分、ディスカッション5分）
 - （1）組織体制
 - （2）ARO機能整備状況
 - （3）情報システム整備状況
 - （4）基盤整備評価

2. 拠点の今後について、自立化の状況（説明10分、ディスカッション 30分）

3. パイプライン管理・実績（説明25分、ディスカッション10分）
 - （1）パイプライン管理
 - （2）臨床開発・評価
 - （3）シーズ発掘体制

4. シーズ発表（2シーズ：各シーズ発表10分、ディスカッション5分）

5. 総合討論（20分）

平成29年度

大阪大学	9/12 (火)
筑波大学	10/5 (木)
京都大学	10/18 (水)
北海道大学	10/25 (水)
東北大学	10/31 (火)
名古屋大学	11/2 (木)
九州大学	11/9 (木)
東京大学	11/21 (火)
岡山大学	11/24 (金)
慶應義塾大学	12/7 (木)

平成30年度

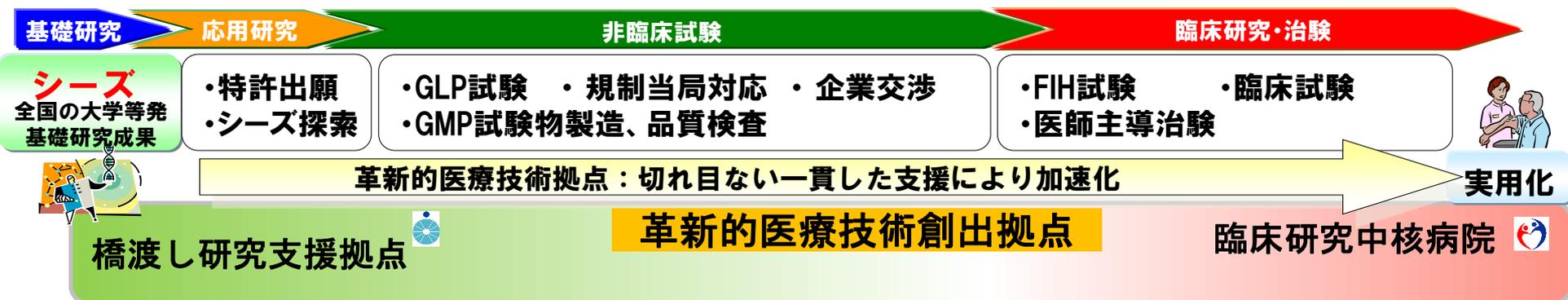
東京大学	9/10 (月)
大阪大学	9/12 (水)
九州大学	9/27 (木)
筑波大学	10/11 (木)
京都大学	10/17 (水)
北海道大学	10/22 (月)
岡山大学	10/26 (金)
名古屋大学	10/31 (水)
慶應義塾大学	11/16 (金)
東北大学	11/26 (月)

橋渡し研究戦略的推進プログラム シーズ育成の強化



シーズパッケージ制度

橋渡し研究支援拠点と研究者を連携させ、拠点の判断により、様々な開発段階にあるシーズに関し、最適な資金配分を実施する仕組みを含めた橋渡し研究支援を行う制度。第2期橋渡しプログラムより開始。



シーズA

【対象課題】
2年以内に関連特許出願を目指す基礎研究課題
【補助額上限】
500万円／1課題
【補助の条件】
拠点内の審査
【支援件数】
各拠点へ交付し、拠点の裁量で各シーズへ配分

シーズB

【対象】
3年以内に非臨床POC(Proof of concept)取得及び治験届提出を目指す課題
【研究開発費、期間の上限】
7000万円／1課題(間接経費込み)、3年間
【採択過程】
拠点内の審査、それに続くAMED課題選考委員会による審査に基づく

シーズC

【対象】
治験・先進医療を実施し3年以内に臨床POC取得を目指す課題
【研究開発費、期間の上限】
1億円／1課題(間接経費込み)、3年間
【採択過程】
拠点内の審査、それに続くAMED課題選考委員会による審査に基づく

H29採択課題

2017年3月28日	公募開始
2017年7月1日	シーズB26課題、シーズC15課題の研究開始
2017年12月14日	次年度継続ヒアリング
2018年3月1日	事後評価結果通知
2018年8月8日	中間評価ヒアリング
2018年12月12日	次年度継続ヒアリング
2019年1月30日	事後評価および中間評価（追加）ヒアリング

H30採択課題

2017年12月14日	公募開始（1次）
2018年4月1日	シーズB10課題、シーズC5課題の研究開始
2018年6月13日	公募開始（2次）
2018年9月25日	シーズB14課題、シーズC4課題の研究開始（2次）
2018年12月12日	次年度継続ヒアリング
2019年1月30日	事後評価ヒアリング

H31採択課題

2018年11月27日	公募開始
2019年4月1日	シーズB12課題、シーズC8課題の研究開始予定

橋渡し研究戦略的推進プログラム 拠点間ネットワーク

概要

これまでに整備されてきた革新的医療技術創出拠点の基盤を活用しつつ、全国の大学等の拠点において、他機関のシーズの積極的支援や産学連携を強化し、大学等発の有望なシーズを育成することで、アカデミア等における革新的な基礎研究の成果を臨床研究・実用化へ効率的に橋渡しができる体制を我が国全体で構築し、革新的な医薬品・医療機器等をより多く持続的に創出することを目指す。

拠点間ネットワーク事業の主な取組

○モニタリングに係る取組 (事務局：東北大学)

初級・中上級モニター研修会の実施等

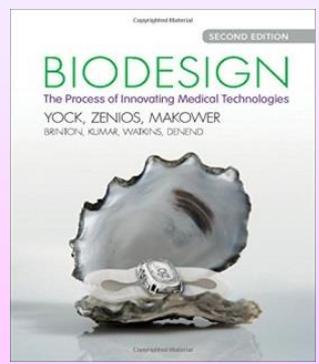
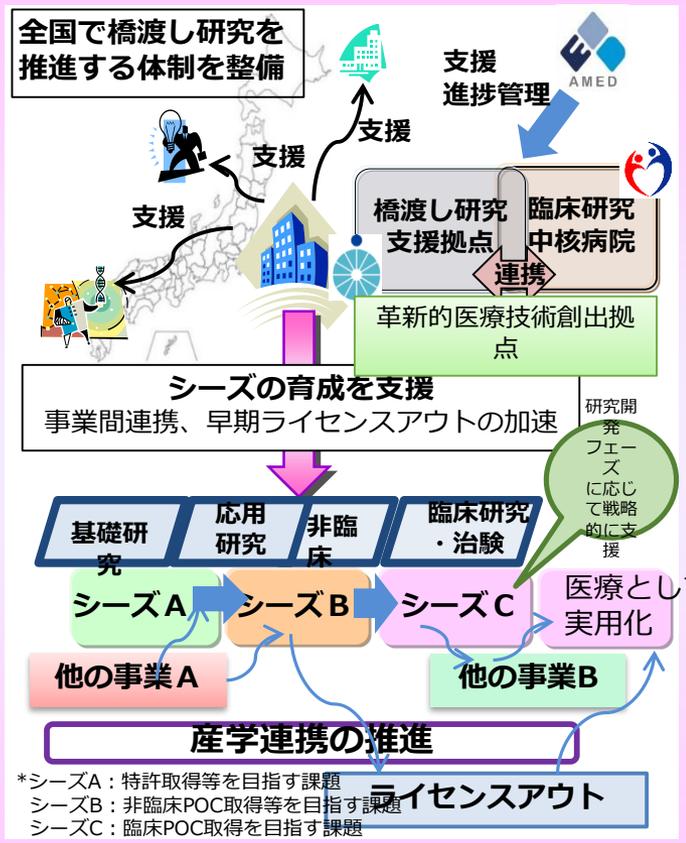
○監査に係る取組 (事務局：東京大学)

監査担当者研修の実施等



○人材育成に係る取組

TSMTP (代表機関：九州大学 分担機関：北海道大学、東京大学)
Japan Biodesign (代表機関：大阪大学 分担機関：東北大学、東京大学)
Research Studio (代表機関：筑波大学 分担機関：慶應義塾大学)



2017年8月3日 モニタリングおよび監査事務局打合せ

<モニタリング>

- 2017年8月28日 第1回モニタリングWG
- 2018年3月26日 第2回モニタリングWG
- 2018年6月25日 第3回モニタリングWG
- 2018年12月4日 第4回モニタリングWG
- 2019年3月25日 第5回モニタリングWG

<監査>

- 2017年12月1日 H29第1回監査WG
- 2018年4月6日 監査WGH29実績報告会
- 2018年5月18日 H30第1回監査WG
- 2018年11月6日 H30第2回監査WG
- 2019年3月12日 H30第3回監査WG

<実務者ミーティング>

- 2018年1月9日 実務者（知財・産学連携担当者）会議
- 2018年11月13日 実務者WG（シーズ発掘・PM育成）
- 2019年2月21日 実務者WG（PM育成）／実務者WG（知財・産連）

【初級モニター研修会】

講義	2017年度: 120名受講 2018年度: 入門編 49名受講, 初級編 119名受講
演習	2017年度: 91名受講(3会場延べ人数) 2018年度: 59名受講(2会場延べ人数)

【中上級モニター研修会】

講義	2017年度: 59名受講(2講義延べ人数) 2018年度: 106名受講(3会場延べ人数)
----	---

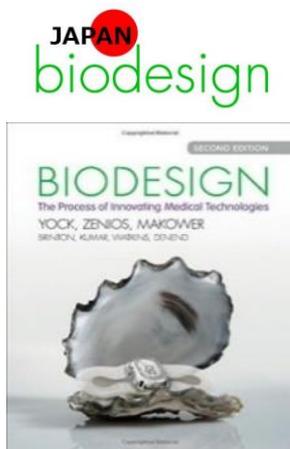
【監査担当者研修会】

講義・演習	2017年度: 28名受講 2018年度: 22名受講
-------	--------------------------------

臨床研究の推進のための研究者育成



○ ジャパン・バイオデザインプログラム (大阪大学・東北大学・東京大学)



- 工学、医学、ビジネスといった多様性のある人材からなるチームを構成
- 知的財産、規制・審査、保険償還、ビジネスプランニングについて、各専門家が指導
- 医療現場におけるニーズの発掘、デザイン思考を活用したコンセプト創造、事業化というイノベーションのプロセスを実践的に習得するプログラム

<成果>

- 第1・2期生
 - ➔ 修了後に修了生による起業が計2社。
- 第3期生
 - ➔ 12名が受講終了。
- 第4期生12名が受講中。

○ TSMTP (九州大学・東京大学・北海道大学)



- 国内外において創薬研究を推進する講師による英語を用いた少人数ワークショップ
- NIH(NCATS)と連携
- ➔ 国際的な視野の涵養と創薬プロセスにおけるスキルの向上

○ Research Studio (筑波大学・慶應義塾大学)



- アカデミア発の医薬品・医療機器・再生医療等製品等の革新的医療シーズを、海外展開も視野に技術移転または起業等の出口戦略に持って行くための実践的人材育成プログラム

橋渡し研究戦略的推進プログラム 中間評価



● 拠点体制の構築と拠点間ネットワークについて中間評価を実施する。

- (1) 必要性：橋渡し研究支援拠点の強化、拠点のオープンアクセス化、特色化・専門化
(臨床で実用化に至ったシーズ数、他機関のシーズの支援により目標を達成したシーズ数)
- (2) 有効性：シーズの橋渡しが加速され、国民へ医薬品・医療機器等として提供されるか、有望なシーズを次々と革新的医療として実用化するための人員等の整備が図られるか
(高い能力を有する専門人材が育成されたか、拠点や拠点以外の機関におけるライセンスアウト等の成果の件数、拠点の収入)
- (3) 効率性：目的の達成に向けて、効率的な研究を推進するための適切な実施計画と体制が形成され実施されているか
(プロジェクトマネジメントの体制整備状況、次の開発段階に進んだシーズ数)

AMED

文科省

3月14日 第一回委員会
評価項目・方法説明の検討

4月中旬 評価用の報告書等提出〆切
書面評価を評価委員に依頼
5月初旬 書面審査〆切 (評価委員)
5月中旬 第二回委員会 (ヒアリング)
6月中旬 第三回委員会 (評価結果案)

6月下旬 結果まとめ
7月上旬 文科省の委員会にて報告

3月28日 中間評価委員会 (第1回)

4月中旬 中間評価委員会 (第2回)

6月中旬 中間評価委員会 (第3回)

7月上旬 中間評価委員会 (第4回)

7月下旬 中間評価委員会 (第5回)

3. 革新的医療技術創出拠点プロジェクト 平成31年度予算のポイント

両省事業の一体的運用による拠点の機能強化・充実



相互利用が可能なりソースを合理化・共有化。また、シーズ研究開発を基礎研究段階から臨床試験段階までシームレスに実施。

革新的医薬品・医療機器等の研究開発

◆ 拠点によるシーズの研究開発と掘り起こしの強化

- ✓ 拠点によるシーズ研究の強化を推進。また、拠点外シーズへの積極的支援、産学連携をさらに強化。また、全拠点の登録シーズを俯瞰するポートフォリオ戦略に基づいた実用化推進を実行。国際水準の臨床研究・治験の実施環境の整備等。
- ✓ 【新】シーズの掘り起こし、特に非医療分野からの技術移転を推進。AMEDが把握しきれない優れた医療系学部以外のシーズを拠点主体で掘り起すとともに、非医療分野の研究者へ医療実用化への教育をOJTで実施。

◆ 中央IRBの促進

- ✓ 認定臨床研究審査委員会のWGにおける検討や全体協議会での議論により、審査の質的均一化を目指し、臨床研究の質向上と効率化、スピードの向上を推進

研究開発者・支援人材等の育成

◆ 研究開発者等の育成

- ✓ シーズ研究費によるOJTでのシーズ研究者教育の強化
- ✓ ジャパンバイオデザイン等、医薬品・医療機器等の研究開発を実施する人材育成プログラムの推進
- ✓ アカデミア発ベンチャーを推進するためのアントレプレナーシップ教育の推進

◆ 支援人材等の育成

- ✓ 臨床研究計画の作成や統計解析を支援する生物統計家の育成を推進
- ✓ 監査・モニタリング人材等の育成を推進

ARO機能の強化

- ✓ 医療機関が有するAROの機能を客観的に評価する指標の検討をアカデミアからの視点で行い、また、若手研究者をはじめとする臨床研究・試験に関わる支援人材の貢献度及び研究結果の評価手法を公的データベースを用いて検討し、必要に応じてARO機能の評価基準の見直しを行う。

H30 橋渡し研究戦略的推進プログラム R&Dパイプライン

全国10拠点のR&Dパイプラインをもとに、フェーズ・分類・疾患・リエゾン進捗の状況を確認しました

アカデミアシーズの対象拠点および統計視点

～10拠点内訳～

北海道大学(代表)

東北大学

筑波大学

東京大学

慶應義塾大学

名古屋大学

京都大学

大阪大学

岡山大学

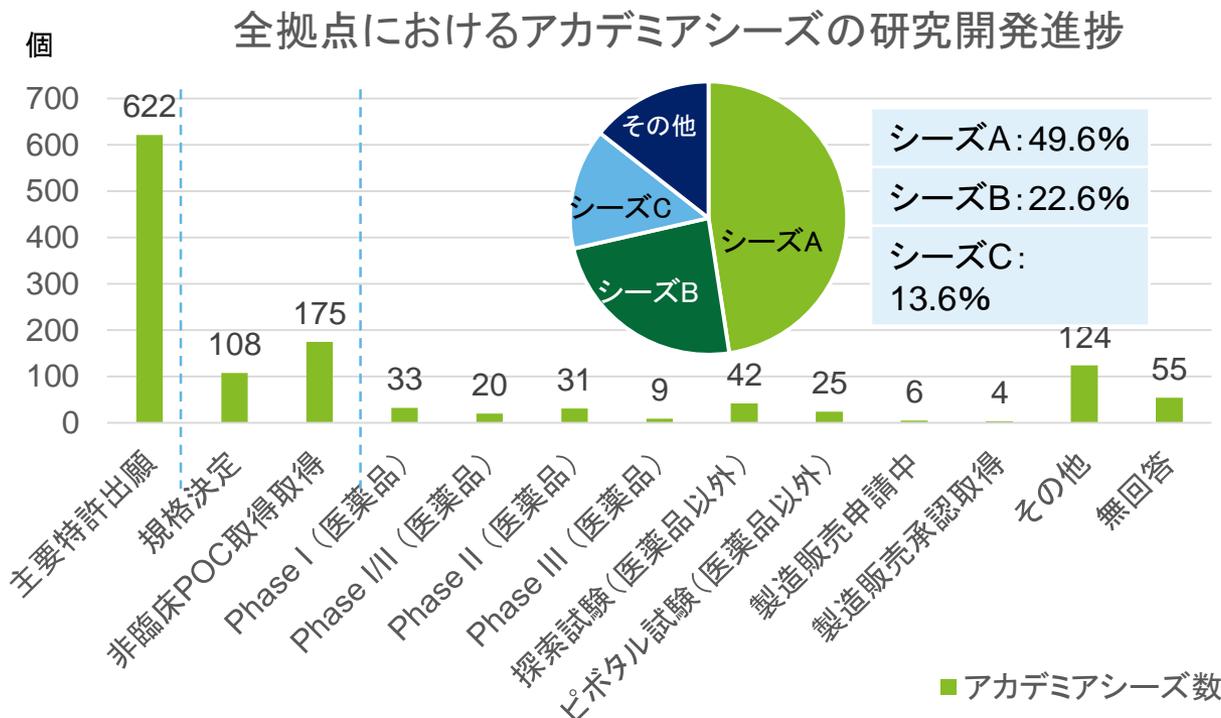
九州大学

フェーズ	分類	疾患	リエゾン進捗
主要特許出願	医薬品	がん	未定
規格決定	医療機器	神経	
非臨床POC取得取得		内分泌・代謝	
Phase I (医薬品)	体外診断用医薬品	泌尿器系	検討・選定中
Phase I/II (医薬品)	再生医療等製品	血液	
Phase II (医薬品)	コンビネーション製品	循環器	交渉中
Phase III (医薬品)		菌	
探索試験(医薬品以外)	未定	筋・骨格	
ピボタル試験(医薬品以外)	その他	免疫	決定
製造販売申請中		眼	
製造販売承認取得		呼吸器	なし
その他		その他	
		皮膚	
		感染	
		疼痛	

全体の49.6%がシーズA(応用段階)であり、実用化に至るまで継続的な資金供与を求めています

研究開発進捗の集計結果

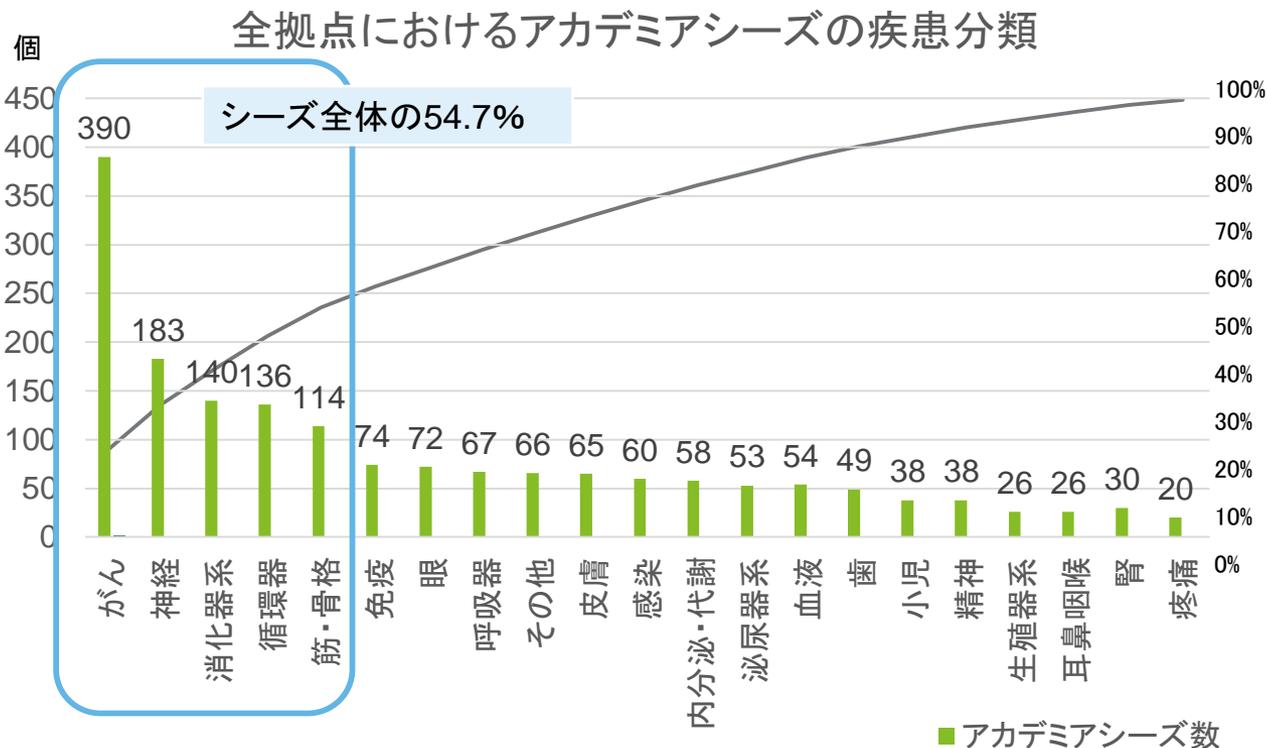
項目名	合計	割合
主要特許出願	622	49.6%
規格決定	108	8.6%
非臨床POC取得取得	175	14.0%
Phase I (医薬品)	33	2.6%
Phase I/II (医薬品)	20	1.6%
Phase II (医薬品)	31	2.5%
Phase III (医薬品)	9	0.7%
探索試験(医薬品以外)	42	3.3%
ピポタル試験(医薬品以外)	25	2.0%
製造販売申請中	6	0.5%
製造販売承認取得	4	0.3%
その他	124	9.9%
無回答	55	4.4%
合計件数	1,254	100%



疾患数で最も多いがんで全体の22.2%を占め、上位5疾患で全体の54.7%を占めていることから、特定の疾患にシーズが集中している傾向がみられます

疾患分類の集計結果

疾患分類	シーズ数	累計割合
がん	390	22.2%
神経	183	10.4%
消化器系	140	8.0%
循環器	136	7.7%
筋・骨格	114	6.5%
免疫	74	4.2%
眼	72	4.1%
呼吸器	67	3.8%
その他	66	3.8%
皮膚	65	3.7%
感染	60	3.4%
内分泌・代謝	58	3.3%
泌尿器系	53	3.0%
血液	54	3.1%
歯	49	2.8%
小児	38	2.2%
精神	38	2.2%
生殖器系	26	1.5%
耳鼻咽喉	26	1.5%
腎	30	1.7%
疼痛	20	1.1%
合計件数	1,759	100%

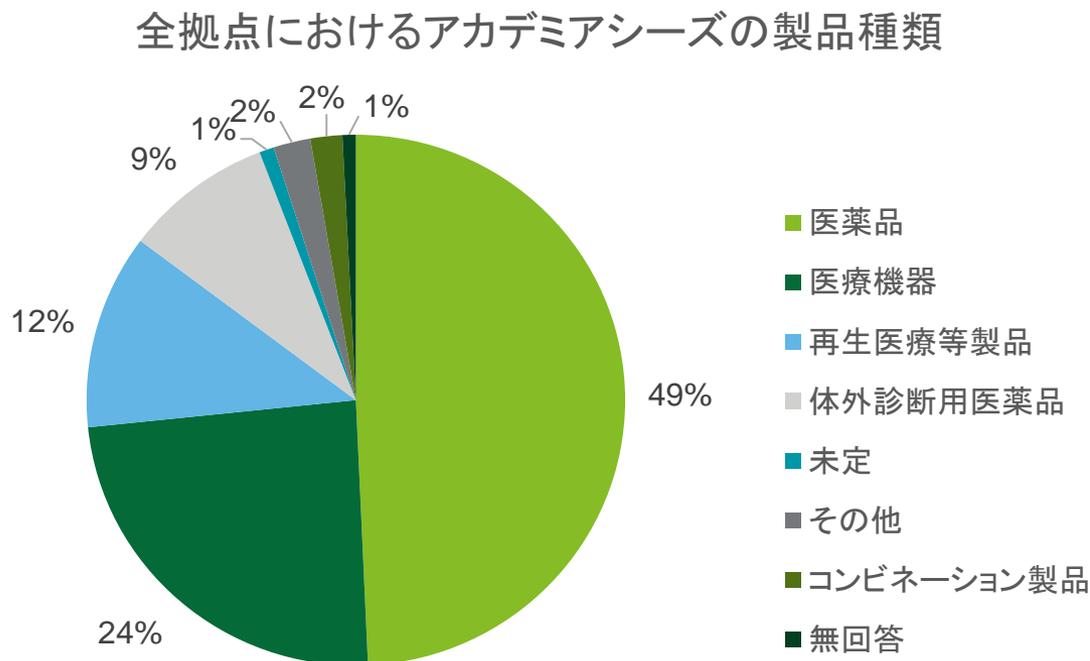


1シーズが複数の疾患分類に該当することによる重複カウントあり

製品種別の構成比として上位2製品(医薬品、医療機器)で全体の73%を占め、注目されている再生医療は全体の12%の構成割合でした

製品種別の集計結果

種別名	合計
医薬品	618
医療機器	302
再生医療等製品	149
体外診断用医薬品	112
未定	11
その他	28
コンビネーション製品	24
無回答	10
合計件数	1,254

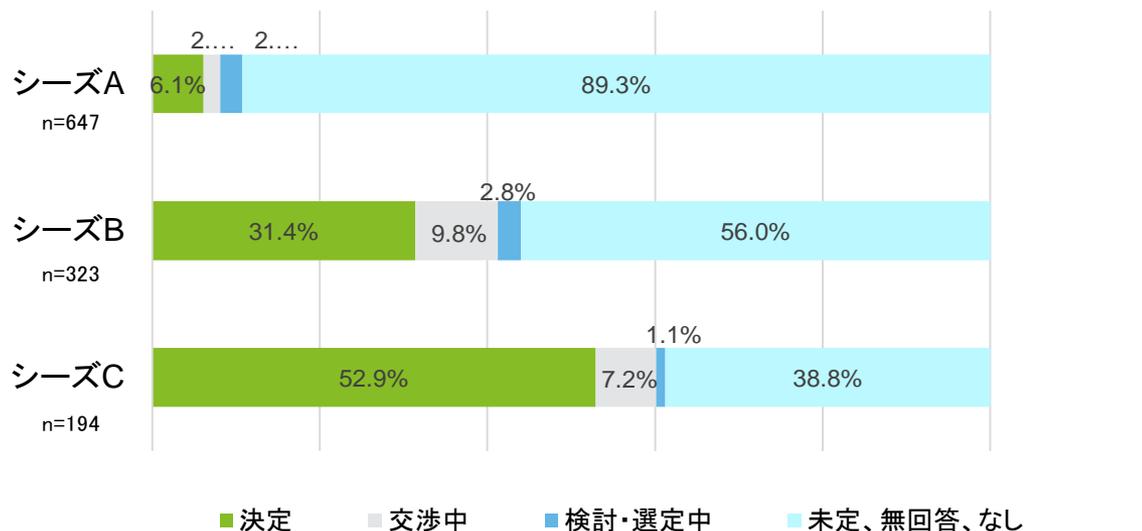


フェーズが進むにつれ企業リエゾンが決定している比率が高まり、シーズCについては全体の52.9%が既に企業リエゾンが決定している状況です

企業リエゾンの進捗状況

項目名	合計
決定	288
交渉中	65
検討・選定中	29
未定、無回答、なし	872
合計件数	1,254

各種シーズの企業リエゾンの進捗状況



※シーズ進捗の判断ができない194件は除外されています。

調査拠点ごとの調査結果を掲載いたします(1/4)

研究開発進捗の統計結果

項目名	全大学合計	A拠点	B拠点	C拠点	D拠点	E拠点	F拠点	G拠点	H拠点	I拠点	J拠点
主要特許出願	622	52	62	68	48	61	37	51	48	69	126
規格決定	108	12	18	12	8	4	7	8	27	9	3
非臨床POC取得取得	175	9	31	17	17	19	5	9	34	13	21
Phase I (医薬品)	33	3	0	2	4	3	3	3	3	4	8
Phase I/II (医薬品)	20	3	0	1	0	4	0	3	6	2	1
Phase II (医薬品)	31	3	8	2	3	1	0	2	5	5	2
Phase III (医薬品)	9	2	2	0	0	0	0	1	3	0	1
探索試験(医薬品以外)	42	3	5	4	2	3	10	3	6	2	4
ピボタル試験(医薬品以外)	25	2	9	2	1	1	3	0	4	1	2
製造販売申請中	6	2	1	0	0	1	1	1	0	0	0
製造販売承認取得	4	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0
その他	124	1	11	25	13	10	7	27	11	9	10
無回答	55	1	0	0	16	20	0	4	4	8	2
合計件数	1,254	93	147	133	112	127	74	112	153	123	180

出典: 橋渡し研究戦略的推進プログラムにおける各拠点データベースをもとに作成

調査拠点ごとの調査結果を掲載いたします(2/4)

疾患分類の統計結果

項目名	全大学合計	A拠点	B拠点	C拠点	D拠点	E拠点	F拠点	G拠点	H拠点	I拠点	J拠点
がん	390	34	34	61	43	37	19	30	40	45	47
神経	183	12	26	14	16	16	10	22	32	18	17
消化器系	140	18	17	14	15	15	13	8	11	15	14
循環器	136	14	31	5	4	11	6	6	26	14	19
筋・骨格	114	10	3	12	11	13	15	10	18	9	13
免疫	74	1	9	2	8	14	1	6	10	14	9
眼	72	5	12	5	7	5	5	8	11	4	10
呼吸器	67	3	10	8	6	4	5	8	5	14	4
その他	66	4	5	4	6	12	0	6	6	4	19
皮膚	65	2	7	3	6	12	4	4	15	6	6
感染	60	3	5	4	6	4	4	6	6	16	6
内分泌・代謝	58	4	5	3	5	3	3	7	7	13	8
泌尿器系	53	4	11	4	5	4	6	2	10	5	2
血液	54	6	6	4	9	6	5	5	0	3	10
歯	49	3	15	3	3	1	3	2	7	11	1
小児	38	5	3	3	2	2	12	0	3	3	5
精神	38	0	5	5	4	2	6	4	5	4	3
生殖器系	26	2	1	1	2	1	5	8	4	2	0
耳鼻咽喉	26	0	7	1	4	4	1	3	3	1	2
腎	30	1	8	2	2	1	4	3	2	6	1
疼痛	20	0	3	2	4	1	0	1	2	5	2
合計件数	1,759	131	223	160	168	168	127	149	223	212	198

出典: 橋渡し研究戦略的推進プログラムにおける各拠点データベースをもとに作成

調査拠点ごとの調査結果を掲載いたします(3/4)

製品種類の統計結果

項目名	全大学合計	A拠点	B拠点	C拠点	D拠点	E拠点	F拠点	G拠点	H拠点	I拠点	J拠点
医薬品	618	43	64	69	44	76	24	68	80	56	94
医療機器	302	24	53	40	19	20	24	23	37	23	39
体外診断用医薬品	112	6	18	8	15	7	8	3	12	18	17
再生医療等製品	149	14	7	8	21	23	12	14	21	11	18
コンビネーション製品	11	0	2	4	1	0	1	0	1	1	1
未定	28	0	1	0	5	1	4	1	0	5	11
その他	24	6	2	4	2	0	0	3	1	6	0
無回答	10	0	0	0	5	0	1	0	1	3	0
合計件数	1,254	93	147	133	112	127	74	112	153	123	180

調査拠点ごとの調査結果を掲載いたします(4/4)

企業リエゾンの進捗状況

項目名	全大学合計	A拠点	B拠点	C拠点	D拠点	E拠点	F拠点	G拠点	H拠点	I拠点	J拠点
未定	152	9	12	6	7	0	26	19	16	20	37
検討・選定中	29	21	1	0	0	0	0	1	3	3	0
交渉中	65	2	27	0	4	0	1	10	2	7	12
決定	288	34	40	7	22	13	38	32	42	29	31
なし	71	0	12	1	11	5	8	11	2	14	7
無回答	649	27	55	119	68	109	1	39	88	50	93
合計件数	1,254	93	147	133	112	127	74	112	153	123	180

項目名	全大学合計	A拠点	B拠点	C拠点	D拠点	E拠点	F拠点	G拠点	H拠点	I拠点	J拠点
希望しない	797	80	85	120	61	90	38	49	59	55	160
希望する	305	12	10	13	29	36	35	55	45	55	15
無回答	152	1	52	0	22	1	1	8	49	13	5
合計件数	1,254	93	147	133	112	127	74	112	153	123	180

出典: 橋渡し研究戦略的推進プログラムにおける各拠点データベースをもとに作成

ご静聴ありがとうございました。